

LISSASPAC、韓国図書館・情報学会共催の国際学会：随記

2017年11月10日（金）・11日（土）、韓国釜山の東義大学校（Dongueui University, Busan, KOREA）に於いて、国際学会（From Information To Knowledge）が開催されました。

LISSASPAC 日本支部会長である志保田務博士（桃山学院大学名誉教授）が、基調講演に招聘され渡韓されることになりました。

この学会の主催者の一人である呉東根博士（啓明大学校教授）は LISSASPAC 会長で、8月12日（土）大阪で開催された「LISSASPAC 日本支部設立セレモニー及び記念研究講演会」にご出席くださり、ご挨拶とご講演を頂いたので、そのお礼も兼ねて随行することになりました。

学会出席のスケジュールは、志保田博士のご講演が第1日目の学会賞等の授与式が行われた直後にあり、終了後は直ぐに空港へ送っていただくという慌ただしいものでした。それは翌日が「図書館を学ぶ相互講座」開催日であったためでした。主宰されている志保田博士の、欠席するわけにはいかないという強いご意志の結果でした。

志保田博士と私は前日の13時50分に伊丹空港を飛び立ち釜山に到着しました。飛行機会社の都合で遅い時刻に変更。距離は近いのですが、飛行機の便が不便なのが意外でした。

志保田博士の講演タイトルは“A study of the Policy for library in Japan: Current Status and Prospect”です。詳しい内容は、次号（Vol.2 No 1.）に掲載予定です。英語でのご発表は、2015年インドのチェンナイで行われた LISSASPAC の大会でもお聴きしましたが、常に日本の図書館と市民の状況をアジア・太平洋地域の研究者に発信されているという姿勢を見せて頂いています。

このように学会の内容を多くは体験できなかったのですが、到着した日（学会の前日）に、私と同じように海外から到着したインドの Kumar 博士、カザフスタンから来られたミズ Kamilova とお会いすることができ、呉博士をはじめとする韓国の研究者の皆さんのお招きで、釜山の親しみやすいお店で夕食をご一緒し交友を深めることができました。私にとりインドは2015年6月に行き、様々な方たちとお知り合いになれたとても近い国の一つです。しかし、カザフスタンは何にも知らない（旧ソビエト連邦時代にその一地域だったというくらい）国で、しかも Kamilova さんは若い大学図書館のライブラリアンで、今後学生に図書館サービスを行い、いわば国を引っ張っていく人たちへの図書館サービスをするという意欲ある方でした。彼女の研究発表を聞けなかったのは残念なことの一つです。

志保田博士のおかげで、2015年6月以来自分の目がアジアに広がっていると感じています。現段階 LISSASPAC のトップメンバーたちは、もはやアジアと太平洋地域だけでなくもっと広い視野をもって研究者の交流を目指しているようです。LISSASPAC 日本支部に属している私は、自然とそのような世界的な広がりの中に身を置くことができるのでしょうか。韓国釜山の美しい紅葉を思い出しながら、今後への夢が広がります。

前川和子（LISSASPAC 日本支部副会長）